

ブックワームの特徴・使用方法

実際の本を読む経験ができるVOCAです。
本の内容を見開きページ毎にブックワームの各キーに録音・再生します。

1. ページの内容をブックワームに録音する前に、録音するキー（緑と紫）と同色のシール（付属）を本の右側ページのキーと同じ高さに貼ります。
2. 見開きページの内容を各キーへ録音します。
3. 子ども達はページをめくり、各ページの内容が録音されているキーを押して、内容を再生します（再生は外部スイッチでも可能です）。



品番：0971
総録音時間：8分間
電源：単3電池4本
（付属しません）
¥39,165(税込)



ブックワームについてご紹介します



エーブルネット社
Mary Sagstetter (エーブルネット社教育/販売コンサルタント)

特殊教育の教諭として、重度障害を持つ児童に11年間関わる。その中で、自己充足、クラスにおける参加の両面において支援技術を活用。地域や州、国レベルの学会において重度障害者に関連する支援技術について論文発表を行う。5年前よりアメリカ ミネソタ州にあるエーブルネット社にて教育/販売コンサルタントとして活躍。近年では、障害を持つ子ども達がVOCAやシンブルテクノロジーを活用して学校新聞を制作する、「学校新聞プロジェクト」に積極的に取り組んでおり、また現在は、ノースカロライナ大学と協同しての「リタラシー(読み書き能力)カリキュラム」の作成に取り組んでいる。

Q: どういった子ども達がブックワームを使用できるのでしょうか？

A: 私はブックワームについてはどんな子ども達も使用できると思っています。学習障害のある子ども達も使用できますし、またブックワームには外部スイッチでの再生機能もありますので、身体的に障害のある子ども達も使うことができます。例えば...

- ・ 学習障害児の場合：
自分で本を読み、その後で自分が読んだところをブックワームで確認していくことができます。
- ・ 自閉症児の場合：
関心のあるページを何度でも聞いたり/読んだり(再生)することができます。ブックワームのキーを押すことによって、自分がキーを押すと音声再生される、という因果関係も学んでいくことができます。
- ・ 障害が中程度の子ども達：
ブックワームで読むスキルを練習し、「読む」ことについて習得していくことができます。
- ・ 重度の障害がある子ども達：
本のページをめくったり、他者と一緒に本を読むことを通し、リタラシー(読み書き)の経験を持つことができます。また本の世界に触れることで、自分の知らない知識を深めていくことにも繋がります。

Q: どんな場所でブックワームは使用できるのでしょうか？

A: もちろん学校でも使用できますが、学校以外では図書館や、音楽療法、言語療法でもお使いいただけます。



～ブックウォーム活用のサクセスストーリー～

Q:実際にブックウォームを使用された子ども達について教えてください。

A:カリフォルニア州、Sunnyvaleにある、パシフィック自閉症教育センター(PACE :PacificAutismCenterforEducation)の主任言語聴覚士、リネット・ディルジオさんからお聞きした、自閉症の子ども達とブックウォームの関わりについてお話しします。

彼女が担当の子ども達にブックウォームを紹介した時、子ども達は大変驚いて、そして大感激の様子でした。自閉症の人々からこのような反応が得られることは、彼女にとって、大きな喜びでした。自閉症の方々にとって、アイコンタクトをとるのは大変珍しいことですが、ある若い男性は、リネットさんの目をしっかりと見て驚きの表情で、こう言いました。「こんなことができるなんて今まで思いもしなかった!」。



リネットさんが担当しているのは最も年齢の若い人で3歳、最も年長で22歳ですが、全員が自閉症、すなわち情報の受信・整理に著しく障害がある中枢神経の疾患があります。自閉症は、コミュニケーションや社会的な交流や行動、活動で問題を引き起こします。「重度の自閉症の人々さえも、ブックウォームのキーを押して本を読むことによって、因果関係を早いスピードで学んでいくのです。」とリネットさんは話しています。また彼女は自閉症の若者の中で新しい行動が出てきていることを発見しました。「彼らは本を共有し、順番を守り、読みたい時には読みたいという気持ちを表現し、本を読む人へ渡すことをし始めたのです。」

パシフィック自閉症教育センターのスタッフは、「彼らが見せた行動というのは元々彼らが持っていたものだと思う。しかし、これまでの状況では彼らの行動を引き出すことはできなかった。でもブックウォームを使った時に初めて、彼らはずいぶん自分達自身で何かができ



る、いう自信を持ったのだと思う。」と話しています。「彼らは床に座ってクルクル回っているのではなく、他の仲間と共に参加をしていました。いずれこういった結果が得られるのでは、と思っていたのですが、私達が思っていた以上に素晴らしい結果が得られました。」とリネットさんは話しています。

また、ある感情障害と失読症のある15歳の少年は、自分が読めないことに対して非常に深い罪悪感を抱えていました。彼は家族もなく、自閉症教育センターのグループホームに住み、社会的な交流に問題があるのですが、その彼が、「ブックウォームを家に持って帰っていい?」とリネットさんにいつも聞きに来るのです。「誰かと一緒に何かを共有して使用したいと思うことは、彼にとっては全く初めてのことで、本当に信じられませんでした。ブックウォームを使った時は、彼は教室にある本コーナーに走って、3冊の本を持ってきて、ブックウォームに録音できるか聞いてきたのです。」とリネットさんは驚きながら話しました。

「すべての子供達が読書の宿題として、ブックウォームを家に持って帰れるようになればいいなと思います。子ども達の両親は子ども達に本を読み、次は子ども達が代わりに両親へ本を読んでくれる、そんな日をとても楽しみにしています。」

貸出機のお知らせ

ブックウォームは1週間程度の期間、無償でお貸出しをさせて頂いています(ご返却の際の送料のみお客様にご負担をお願いしております)。どうぞこの機会にブックウォームの世界を体験なさってください。

貸出機のお申込みは、販売店もしくはお近くのパシフィックサプライ(株)各営業所まで、お願いします。

